

緑爽会会報 No. 153

2017年12月22日発行

日本山岳会 緑爽会

発行人 富澤克禮



デザイン・制作 関塚貞亨

〜〜《報告》〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

10月懇談会報告

山本良子さんによる懇談会「数字の意味—JACの先人の思いを通して考える」

開催日：10月30日（月）18時より、104号室にて。

出席者：17名（写真参照）

当日の天候が懸念されたが、幸い台風も去って予定通り開催された。月曜夜ということもあり参加者は少な目で、また会員以外の参加がお二人（中條さんと南川さん）であったことが少々残念であった。それでも山本さんのお話の後の質問・懇談では様々な声が聞かれて大変有意義なものとなった。冒頭、富澤代表から山本さんの紹介があり、2014年2月に山口節子さんと「お茶の水ルーム時代の思い出」を語っていただいて以来毎年連続でお話しいただき、今回は4回目ということであった。次ページから山本さんのお話と、質問・懇談内容を簡単にご紹介します。



緑爽会10月懇談会 2017. 10. 30

渡部温子、渡邊貞信、中條昌子、吉田理一、小清水敏昌、鳥橋祥子、小林敏博、西谷隆亘、荒井正人、小泉義彦
平野紀子、富澤克禮、山本良子、南川金一、夏原寿一、松本恒廣、瀬戸英隆、島田稔

<山本さんのお話>

「春山雪解け秋日暮れ」10代の頃に山登りの注意事項として教わった言葉です。今日お越しの皆様ならきっと納得いただけることと思います。会員として古くなればなつたで、様々な思いがあります。今夜は数字の意味ということでお話ししますが、皆様に私の思いがどう伝わるか心配なところもあります。

さて数字というとどんな数字を思い浮かべられるでしょうか。8848? 3776? 私の好きな数字は3192とKは抜いても2(ツー)とかです。まず10(じゅう)から始めましょう。これは今月の10、JACの創立月。1905年10月14日が創立記念日です。実はどんな方がお見えになるかわからないので、若い方も想定して会の歴史や当時の装備などお話ししようと準備しました。皆様のお顔を見ると、そんなことは知っているよと言われそうではありますが、数字ということでJACの歴史を辿ってみたいと思います。

(山本さんから1929年虎ノ門にルーム開設以降の出来事や会長などが紹介された)



そして1958年、私が入会した年です。紹介者は川崎精雄さんと山下一夫さんです。この時は別宮会長時代で、会長直々にバッジを渡され、「いい番号ですよ。4704“死なんよ”」と語呂合わせをおっしゃっていただきました。ルームでは親よりも上の世代の方がこどもや娘扱いではなく仲間として遇してくれたことが印象に残りましたし、ステキなおじ様とご一緒できると思うと嬉しかったことを覚えています。

入会の年にビブラムを買いました。高嶺の花でした。装備と言えばナーゲルとキスリング。ムガー、トリコニーと言っても若い人にはわかりませんね。皆様はわかっていただける。キスリングは帆布で重たい。サイドタッシュでもナップザック程あるのですから。縦走というと、これも死語で十貫目といえれば約40キロですが、このくらい担ぐのは当たり前でした。ウィンドヤッケも木綿、コッヘル、ラジウスそれにお米。私の必需品というとミカンの缶詰とコーンビーフ。ビタミンCとたんぱく質補給のため一日一個見当で。それと、何を忘れてもこれだけは忘れるなと言われたのが新聞紙でした。雨具や防寒着代りに、また「四等寝台」に必携で、これも最低5日分は持って行きましたから、重くなりますね。

次は先人の言葉です。まずは藤島玄さん。飯豊山に女性だけで行った時のことで、その頃は高い山ばかり登っていました。「新潟の山はどこに登っている?」と聞かれて八海山は登っていたと思うが、あまり登っておらず「歳をとってからも大丈夫です」と答えたら「ばかもん!」と一喝されました。山は高さではない。松本の山は1500mか2000mからの3000mだが、新潟の山は1mからの2000mだ。新潟の山をなめてはいけない、と教えられました。山がお好きで、若者にこのように教えようという熱意のある方でした。この時のリーダーは三枝禮子さんで、後に「ネパール語辞典」の編著で第一回の秩父宮山岳賞を受賞されています。この方にもいろいろ教えてもらいました。

続いて松方三郎さんです。松方さんには山でというより個人的に何かと相談に乗っていただき、いわば人生の師という思いです。山の世界では海外に名を馳せている方ですし、経済人としても活躍された一方、お子さんには山に関係する名前を付けるなど、優しい素敵なおじ様でした。当時のルームは気軽にフラッと立ち寄れる雰囲気があったのに、今はそれが残念です。

もう一人、三井松男さんです。私が昭和40年に甲府へ引っ越した時に、友達ができるからと山

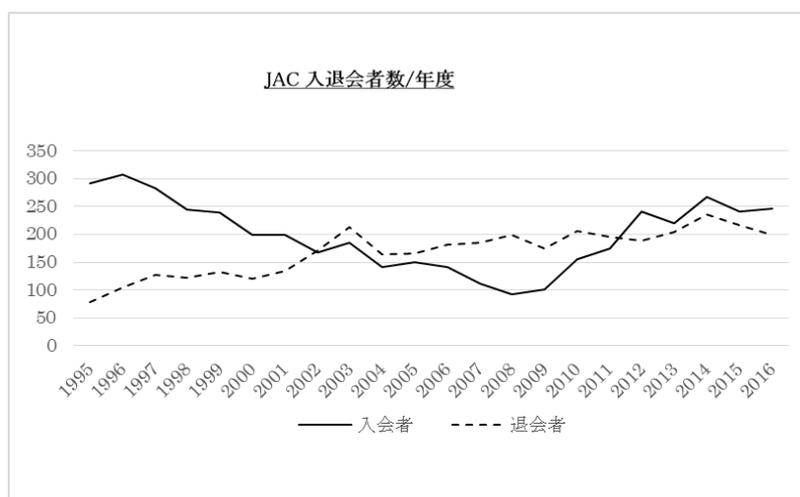
梨支部に入った時の支部長です。会員と家族ぐるみで付き合い、木暮理太郎の碑前祭をお世話されていました。

大勢の先輩方から沢山のことを学び影響を受けましたが、その一つに「山行記録」があります。山行記録は登頂記とは違う。何時に何時間でどこへ登ったなどだけではだめで、どんなアクシデントや失敗があって、それに対してどう考え対処したのかといったことがなければいけないということです。

来年で在籍60年です。山を通して多くのことを教えてもらいました。(資料配布)さて数字の50です。50年と言えば永年会員の基準ですが、これは50年間会費を納め続けたということです。定款には終身会員も出ています。私個人の感じ方かもしれませんが、終身会員は会費を納めればなれるわけで、重さとしては永年会員の方がはるかに重いのではないのでしょうか。それと会員番号。これは永久番号です。資料の入退会者数推移をみると2003年辺りからは「入会者数<退会者数」となっています。何でやめるのでしょうか。番号は欠番になってしまい、今16000番とありますが実質は5000人くらい。「もったいないな」との思いで残念です。これからのJACを考えるという思いに立った時、会費は決して高くないのですから、紹介者は入会者が途中で退会しないよう説得してほしいです。入会したが期待に反したとか、仲間作りが出来ないことでやめていくのでしょうか。この思いは私ばかりではないと思います。最後になりますが、今日までブランクもありましたけれど、多くの山仲間にも恵まれ、山に行くことができ幸せだと思っています。

配布資料<資料1>定款第3章「会員及び会員に準ずるもの」

<資料2>緑爽会発足の1995年以降の入退会者数2016年推移(復活会員・団体会員含み)



※2016年には準会員を含む

※会報「山」の入・退会者(物故者含み)がベース

※これに表れない退会者もあり、傾向値として見ていただきたい

<質問・懇談>

小清水さん：JAC創立は日露戦争の翌年だがその経緯や軍部との関係は?の質問に対し、

南川さん：先に感想を。会長から直々にバッジをとの話は初めて聞いた。そうであれば入会時の印象は強烈ですね。普通そんなことは無いです。ただ戦後の会が再建され、大変活気がある中で、

歴史的な人物がずらっといるのに、隔たりのない運営がなされ、そういう会の雰囲気があったということだと思う。

こうしたことは創立時にもつながることで、当時は日露戦争で勝ったとあって世の中が浮かれていた。しかし「山岳」の行間を読んでも、そのような時代背景を窺わせるような記事は一切出てこない。それは積極的か消極的かわからないが、JACは時代背景と距離を置いていた。しかも当時としては驚くほど民主的に会の運営がなされていた。例えば四松庵で開かれた、今の晩餐会の原形ともいえる懇親会に慶応の学生が出席したが、発起人など錚々たる人が出ている中、「一人前に扱ってくれた」と感激している。

(百年史グラビア写真に学生の手紙写真あり)

<ここで夏原さんから、現在の会には山本さん以前入会で在籍の方が154名いるとの報告あり。ただ団体(学校)会員も多い。ちなみに緑爽会では山本さんを含め4人>

南川さん：永年会員について。永年会員になると晩餐会に招待されて永年会員章が授与されることが伝統になっていた。最近招待を取りやめたという。永年会員制度は1965年、松方会長時代に始まったことだが、その趣旨・精神を知らないからだ。この制度は「通常会員が在籍満五十年に達した場合には、多年に亘る会への貢献に感謝の意を表すために永年会員章を贈り、爾後の会費を免除する」というもので、会として謝意を表すものだ。

山本さん：ヨーロッパでは50年は「ヨベルの年」と言って大きな節目なんです。松方さんがヨーロッパの山岳会を見てこられて、スイス山岳会に倣って作った制度。そこが大事だし、重みがあります。

南川さん：永年会員制度は当時の理事会や評議員会を経て決議された。その時に評議員だった望月達夫さんは「山岳」編集に長く携わった。この永年会員制度の精神を受けて、永年会員が亡くなった時は、「山岳」に追悼文を掲載するよう努力していた。会への貢献というのは何も役員だけではない。長年会費を納めて会を支えてくれたことも立派な貢献だという考え方で、それがとりもなおさず永年会員制度の精神である。その一つの形として晩餐会への招待があったのだが、その精神を忘れ、金がないから取りやめるという発想がおかしい。もっと永年会員の対象者は怒らなきゃいけない。地方の会員には、永年会員として招待されて上京する時にぜひルームを見ておきたいと言って楽しみにしていた人がいた。

山本さん：少し言うのを遠慮していましたが、私の言いたかったことを南川さんがおっしゃってくださいました。

西谷さん：紹介者の役割、意味は？

山本さん：2名のうち1名は役員経験者または支部長経験者ということですからきちんとJACのことを理解させ責任をもって入会させるということでしょうね。親ではないが育てる、ということ。

南川さん：紹介者については何をしなければならぬとの規定はないが、監督的な役割を果たすべきでしょう。

吉田さん：私が越後支部に入会した時の紹介者が藤島玄さんです。そのお名前が出て驚いた。山本さんとはどういう繋がりですか？

山本さん：先ほど申し上げた飯豊山に行った時に偶々です。バッジを帽子か何かにつけていたので

声をかけられました。(ここでバッジをつけることの功罪に関していくつか話がありました)
最後に南川さんから、今回の告知に「数字の意味」とあったので、会員番号のこともあるかと復習してきた、と前置きされて、発起人の会員番号について以下のお話がありました。

まず発起人の番号は NO1：城数馬 2：小島烏水 3：高野鷹蔵 4：高頭仁兵衛
5：武田久吉 6：梅沢親光 7：山川(河田)黙 です。

そして、これは「山岳」のどこにも書いてないので推測ですが、最年長の城を1番に、二番目の小島を2番にしたかったのではないかと推測。年齢順だと高野鷹蔵と高頭仁兵衛が入れ替わるのだが、何かの基準に基づくべきだと考えてABC順にしたようです。会員番号を導入して最初の名簿である大正8年の会員名簿もABC順です。その時代の名簿がABC順になっているかどうか調べてみたが、東京帝大の卒業生名簿がその頃からようやく五十音順になっていた。会員番号の導入や名簿のABC順化は武田久吉が庶務担当幹事の時、おそらく武田久吉の文明開化の発想が発揮されたように思う。

(報告：荒井正人 写真：小泉義彦)

11月山行 丹沢・大山

渡邊 貞信

実施日：11月27日(月)

参加者：11名(写真参照。ただし荒井会員は下社まで)

良い天気恵まれて、皆様のご協力のもとに無事山行が出来ました。

11月の出来るだけ遅い日、歩行時間は約3～4時間、晩秋の夕日はつるべ落としとなる条件、そして、紅葉が降りて来る時期であること、あわよくば冠雪の富士山が見られる近郊の山として当初、候補として挙げたのは次の通り。

①足和田山、②大雄山最乗寺、③箱根金時山、④明神岳、⑤丹沢大山等でした。

更に日帰りで交通至便なところ、特に帰りのアクセスで便利な山などを検討し、小田急の割引周遊券「丹沢・大山フリーパスAキップ」が使えて都合が良い等で最終的に今回の「丹沢大山」に決定しました。

伊勢原駅バス停には定刻前に皆さん集合、バス、ケーブルと乗り継ぎ江戸時代からの山岳信仰の山、大山阿夫利神社下社へ着く。あたりは丁度紅葉が美しい。

自然景観としてミシュラン・グリーンガイド・ジャポンで「大山阿夫利神社からの眺望」が二つ星の評価を受けているとのこと。遠く相模湾の景色がそれを物語っている。

見るからに立派なたたずまいの阿夫利神社下社で登山前の参拝をした後出発となった。

ここから大山山頂迄標高差570mあまり、丹沢特有の地形で距離は近いが結構な急登となる。

下社脇の登拝門からいきなり石段急坂が続き、きつい杉林の登りであった。

途中、夫婦杉、牡丹岩、天狗の鼻突き岩等を見ながら、30分ごとの小休止で息を整える。途中十六丁目では視界が広がり相模湾が望めほっとする。

次第に傾斜が緩やかになりヤビツ峠からのイタツミ尾根に合した二十五丁目の先で待望の富士山が眺望できる筈であったが残念ながら見られなかった。

しかし、丹沢の表尾根が良く見え、塔ノ岳が目の前で岡野金次郎のゆかりの深い尊仏山荘が山頂にくっきりと見えたのが印象的であった。更に登り、鳥居を抜けて阿夫利神社奥社の建つ山頂に到着、風もなく穏やかに我々を迎えてくれた奥社に参拝。

標準のコースタイムより約40分位遅れたが年配組の我々にとってはまずまずの登りであった。ここで待望の昼食となった。昔、来た時には奥社が有るだけで何もなかったと記憶しているが、今はトイレや店が出来て良く整備されていた。



山頂にて（左より）西谷隆亘、夏原寿一、瀬戸英隆、富澤克禮、中村好至恵
小原茂延、渡部温子、西谷可江、大島洋子、渡邊貞信（写真提供）

しばし休憩の後、集合写真を撮り下山開始、山頂からは、雷ノ峰尾根を見晴台に向かって急な下り坂が続いた。見晴らし台では中村好至恵さんが今降りてきた山頂から続く尾根の見える山容の絵を手早い筆さばきで完成させ皆の感動を呼んだ。

見晴らし台からは暫くトラバース気味に阿夫利神社下社に戻る、途中紅葉が綺麗であった。

下社からは途中、こま参道で名物の豆腐を肴に乾杯をしたかったがウイークデーで店も閉まっており、行きと同じルートケーブル、バスを乗り継いで伊勢原駅に戻った。

伊勢原駅前の「とんぼ」で全員無事を祝して乾杯し、家路についた。お疲れ様

{コースタイム}伊勢原駅(9:10) ⇒ ケーブル(9:40) ⇒ ケーブル(10:00) ⇒ 下社(10:20)
⇒ 登山口(10:30) ⇒ 夫婦杉上(11:00) ⇒ 十六丁目付近(11:40) ⇒ 富士見台付近
(12:10) ⇒ 大山山頂(12:40) 《昼食・休憩》 山頂発(13:30) ⇒ この間時々休憩 ⇒ 見
晴台(14:30)・休憩⇒ 下社(16:00) ⇒ ケーブル発(16:20) ⇒ バス発(16:50) ⇒ 伊勢原駅
着(17:15)

錦繡の相州大山

小原 茂延

11月の山行は渡邊さん、夏原さんの計画による丹沢の大山であった。この山行を会報で見た時、最近、里山歩き程度になっている小生には、ややハードで、敬遠していたのであるが、わがマンションからビルの上に望める、相州大山のピラミダルな峰頭を見ているうちに、登れるかより、もう一度登りたいとの想いに駆られてしまった。

当日 27日は穏やかな好天やや高曇り乍ら風もなく、伊勢原駅に集合したのは直前参加の私を入れて11名であった。大山ケーブル下まで直行のバスに乗る。「こま参道」の階段を登って阿夫利神社に詣でる。ここで残念なことに、足を痛めていた荒井さんは登頂を見合わせるようになった。この辺りの錦繡は素晴らしく、ことに楓類の紅葉、黄葉そのグラデーションが見事であり、紅葉の名所であることを改めて思い知らされた。

ケーブルから見る樹相も常緑樹の間に紅黄葉の落葉樹が混じり、自然の彩なす美に見惚れるばかりである。途中駅の大山寺は殊に楓の紅葉で名高いようであるが今回は通過。



登拝門をくぐり、丁目石を追いながら夫婦杉で小休を取り、登りを続ける。平日とはいえ登山者は老若男女多く、孫連れのグループなどと前後して行く。途中、海側の展望が開け、江の島などが望めたが、富士は裾をわずかに見せたものの、山頂は厚い雲の中であった。25丁目でイタツミ尾根からの道を合わせて28丁目が山頂である。西側に塔ノ岳表尾根方面のパノラマを見渡せる場所があり、中村画伯がスケッチブックを広げた。

絵画も写真も構図が重きをなすのは基本のようで、例えば紅葉の美しさを被写体としてシャッターを切る。しかしプリントしてみると奥行きに乏しかったり、樹木だけでは如何に鮮明であっても物足りない写真となっていることが多く、ガッカリした経験がある。

山頂に立ったのは10数年ぶり、南東にあるブナの古木、雨降り木(あふりぎ)を確認する。やや黒ずんできて、最近の登山者は目にもくれないようであるが、大山のご神木である。以前、北東側にマユミのかなり大きい木があって10月下旬頃には桃赤色の美しい実が見られたが、それらしき木は見当たらなかった。山頂を後にして雷尾根を降り、見晴台からトラバース道をケーブル駅に戻る。下社駅の手前に二重滝が落ちている。傍らの二重堂は昔、雨乞いをした場所であるが、反面、降り過ぎれば、源実朝が詠んだように「時により過ぐれば民の嘆きなり八大竜王雨止め給へ」となる。早魃・豪雨は数百年後の今も如何ともしがたい。

豆腐料理店は早終い、伊勢原駅前の「とんぼ」で歓談、当たりの店だった。

(写真も筆者)

1 2月例会 懇談会/忘年会 (速報)

開催日：1 2月16日(土) 14時～ 集会室

参加者：26名

会の冒頭、森日本山岳会前会長が緑爽会の行事に初参加ということでご挨拶をいただきました。

忘年会に先立って、田村佐喜子さんから「松本に住んで、山あれこれ」と題してお話しいただきました。このお話の内容や写真は次号で詳細お伝えします。

忘年会は例年通り、皆さんからお酒やお菓子をたくさん頂戴し、田邊さんに乾杯のご発声をいただいて始まりました。途中みなさんの近況も話していただき、大変に盛り上がったことをご報告いたします。この時の様子についても次号とさせていただきます。

～～《予告など》～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～

1月山行:1月20日(土) 丹沢・弘法山 担当:瀬戸英隆、夏原寿一

初詣は弘法山山頂の釈迦堂で。お詣りを済ませたら権現山へ。

冬の晴れた日には富士山、相模湾、伊豆大島などが望める見晴の良い山です。

権現山からの下りは杉林の中の急傾斜のジグザグ道、慎重に歩きましょう。

※ストック必携

集合：9時30分 小田急線「鶴巻温泉駅」北口改札外

行程：鶴巻温泉駅→吾妻山→善波峠→弘法山→権現山→登山口→秦野駅

歩行時間約2時間30分

申込：1月17日までに夏原へ



【参考】小田急線急行利用の場合

新宿	⇒	登戸	⇒	鶴巻温泉
8:11		8:30		9:15
8:21		8:40		9:26

2月例会:2月26日(月)午後2時～

関塚さんに「思いつくままに」と題してお話をいただきます。

博学多識の関塚さんお好みのカメラや西洋磁器のことなど、山以外の面白いお話も楽しみに！

3月山行:3月24日(土) 気軽に歩ける「日連(ひづれ)アルプス」(詳細は次号)

集合:JR 中央線「藤野駅」改札口外 9時10分

行程:JR 藤野駅→日連神社→宝山→日連山→鉢岡山→八坂山→金剛山→藤野駅(歩行約4時間)

担当:小林敏博、夏原寿一

―― 編集後記 ―――

今年も残すところ僅かとなりました。また1年 JAC は歴史を積み重ねていきます。時代が変われば新しいことが生まれるのは世の常ですが、守っていかねばならないものもあります。伝統、精神、そんな大事なことに理解を深めた懇談会でした。皆様良いお年をお迎えください。(荒井正人)

<次号予告>2018年2月26日発行の主な内容

報告:12月例会 懇談会/忘年会、1月山行報告 <皆様から投稿をお待ちしています！>